

平成27年度 京都府立北嵯峨高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) ( 実施段階 )

学校経営方針	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>「独創質実（何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直なこころで行動する。）」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を实践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。</li> <li>2 科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。</li> <li>3 保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願いを実現することに努める。</li> <li>4 地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。</li> </ol>	<p>(成果)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保護者・学校評議員への授業公開や、全ての生徒・保護者アンケートの実施等により、開かれた学校づくりを進めた。</li> <li>(2) 生徒指導部と学年部等の連携により、生徒は全体的に落ち着いた学校生活を送っている。</li> <li>(3) 教育相談会議を定期的に開催し、教職員の共通理解のもとに、生徒の現状と今後の指導の在り方について検討した。</li> <li>(4) ホームページの定期的な更新を図り、常にタイムリーな情報を提供した。</li> </ol> <p>(課題)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 進路希望実現 (2) 生徒の基礎学力定着と自学自習の育成</li> <li>(3) 教科指導の向上と授業の工夫改善 (4) 問題行動の抑止</li> <li>(5) 交通安全意識の向上 (6) 特別支援への理解と支援体制</li> <li>(7) 地域の自然、歴史、伝統文化といった教育資源を活用</li> </ol>	<p>[チーム北嵯峨]の「学校力」醸成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教職員が連携協力してさまざまな教育活動を担い、「入学したい学校」の実現に努める。</li> <li>(2) 幅広い学力の生徒に対する個に応じたきめ細かい進路指導を行い、希望進路の実現を目指す。</li> <li>(3) 学習環境（授業規律の確保と整然とした教育環境）の整備に努めるとともに、学習意欲の向上と思考力、判断力、表現力の育成を目指して授業内容の改善、充実を図る。</li> <li>(4) 学習と部活動の両立と基本的生活習慣の確立により総合的な「人間力」の育成を目指すとともに、部活動の一層の充実・発展と全体加入率および定着率の向上を図る。</li> <li>(5) 配慮を要する生徒（LD、ADHD、高機能自閉症等）へのきめ細やかな教育相談・特別支援教育を推進する。</li> </ol>

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価	成果と課題	
学習指導	◇教科指導力を向上させる。	◆わかる授業のための授業の工夫改善を進めるとともに、指導と評価の一体化を踏まえた学力の充実と向上を図る。	1	C	B	課題がある生徒や要支援生徒を適切に指導し、中退原留を防止できた。一方で、生徒の学力伸長のために、授業改善が急務である。
	◇中退・原級留置を防止する。	◆教職員の連携により、不登校や倦怠学生徒、特別な支援を要する生徒を適切に指導し、中退、原留を未然に防止する。	2	A		
生徒指導 特別活動	◇愛校心を育成し基本的な生活習慣を身につけさせる。	◆制服の正しい着用を通じて、本校生徒としての自覚と誇りを養うとともに、基本的生活習慣の定着を図るために教職員が一致して指導する。	3	B	B	身だしなみ、交通ルール遵守、マナー向上等について、粘り強く継続的に指導を行っているが、教職員の意識を統一させて更なる向上を目指した指導を徹底する必要がある。
	◇交通規則の遵守と交通安全に対する意識を高める。	◆関係各団体と協力し、交通規則の遵守と、自転車の交通マナー向上や交通安全に対する生徒の意識向上を図る。	4	C		
	◇生徒の自主性・社会性を育成する。	◆生徒会や部活動が中心となって、地域への奉仕活動を進め、社会性やボランティア精神を育成する。	5	A		
進路指導	◇個に応じたきめ細かい進路指導を行う。	◆学年部・教科担当者・部活動顧問が個々の生徒の学力状況・学習状況を把握し、3つの方向からの指導により、学力の向上と進路希望の実現を図る。	6	B	B	進路指導部及び学年部を中心に、教科担当・部顧問の連携を更に推進し、生徒のキャリア意識を形成し希望進路の実現、特に大学進学者の希望校合格に向けて、教科指導を充実させる必要がある。
		◆キャリア教育を充実し、生徒個々の進路意識の定着を図るとともに、就職率100%、大学進学率70%などを目標に個に応じた進路指導を充実させる。	7	C		
人権教育	◇人権問題を正しく理解させる。	◆あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための態度を育成する。	8	B	B	様々な事案に対して早期対応ができていないが、あらゆる場面で生徒の人権意識の高揚に努めなければならない。
健康・安全 教育	◇配慮を要する生徒の早期発見及び支援を行う。	◆保健部と担任や教科担当と情報の共有を図り生徒の状況を適切に把握し、教育相談会議等を活用して、配慮を要する生徒への支援を適切に行う。	9	A	A	教育相談会議の構成を再編することによって、教育相談機能は充実させられた。一方、清掃に対する教職員の意識向上に更に努める必要がある。
	◇整然とした教育環境づくりを推進する。	◆日々の清掃活動を大切にするとともに月1回の大掃除を計画し、学校の環境整備と学校全体の美化に取り組む。	10	B		
図書館指導	◇図書館メディアを充実し、時代の要求に対応した図書館を目指す。	◆教科と連携して、読書活動の推進や視聴覚教材の充実を図る。	11	B	B	I C T機器を利用した授業改善と教材整備を推進する必要がある。
安全管理 情報・文書	◇学校の危機管理体制を強化する。	◆全教職員が学校の危機管理対応について理解を深め、生徒の安心安全に適切な対応ができるようにする。	12	B	B	情報管理体制は充実してきている。一方、教職員の危機意識を更に高め、学校の安心安全に向けた対応力を高めなければならない。
	◇学校の情報管理体制の充実を図る。	◆生徒の多様な個人情報適切に管理し、学校の情報管理体制の充実と教職員のセキュリティ意識の向上を図る。	13	B		
家庭・地域 社会との 連携	◇広報活動を充実し、速やかな情報提供を図る。	◆各中学校との連携を深め、学校説明会・部活動体験等の内容を充実し、積極的な広報活動により信頼される学校づくりを進める。	14	A	A	学校説明会、HPの更新については、積極的に実施できた。一方、校外関係機関との連携推進や学校説明会の受付方法など、克服すべき課題はまだ存在している。
	◇地域に信頼される学校づくりを進める。	◆学校評議員、学校関係者評価委員、PTAとの連携を深め、地域に開かれた学校づくりに努める。	15	B		
学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実績と部活動の実績がともに振るわない。一つには、携帯電話の取り扱う時間を減らせば、学習に充てられる。さらに、手厚い進路相談も望まれる。</li> <li>・担任の指導のおかげで、学習時間が確保できており、よい刺激を与えられている。</li> <li>・卒業後に自ら進んでボランティア活動に参加している人が身近にいる。高校における取組の継続を期待している。</li> </ul>					
次年度に向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、身だしなみ、マナー（携帯端末機の使用、登下校時の自転車等）向上など、規範意識を高めることを通じて、自主自立の精神を養う。</li> <li>・基礎基本の徹底、応用力・実践力の涵養など、学力の充実と能力の伸長に基づいて、希望進路の実現と部活動での目標達成を目指した指導を行う。</li> <li>・学校の設置環境を有効活用して、授業等の充実を図る。</li> </ul>					